

令和3年度第2回稲毛区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

1 日 時

令和3年10月27日（金）14時から15時まで

2 場 所

稲毛保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者

- (1) 委 員 岩上章子委員、岡野龍夫委員、岡山尚美委員、菊池まり委員、工藤和博委員、工藤嘉生委員、佐久間文子委員、鈴木金作委員、関谷輝市委員、内藤八洲夫委員、深味肇委員、古沢幸子委員、眞智洋二委員、松川智子委員、松原正道委員、宮永稔委員、森松助委員、吉岡加代子委員

※25名中 18名が出席

4 会議の概要

(1) 第5期稲毛区支え合いのまち推進計画の策定について

事務局から、8月に書面開催した、令和3年度第1回稲毛区支え合いのまち推進協議会の書面開催結果について報告を行った。鈴木委員長から委員に対し、質疑を行ったが、意見はなく、全会一致で承認された。

(2) その他

鈴木委員長から、上記の第5期計画に関連し、ボランティアの拡大、災害対応について、深味委員に意見を求める発言があった。

深味委員からは、事務局に対し、高齢化でボランティアの確保が非常に難しくなっている中、避難行動要支援者名簿と避難行動要支援者個別避難計画作成促進モデル事業との関連を含む災害時の支援体制、ボランティアの拡大について具体的な方法をどのように考えているのか、質問があった。これについて、事務局からは、地域の担い手、ボランティアの拡大の具体的な取組みについては、今後議論していくことになるが、基本的には、第4期計画の取組みを参考として進めていくことになるとの説明があった。

宮永委員からも、自治会でも若い世代にボランティアが広がらないことに課題を感じている。見守りについても、高齢化で苦慮しているとの意見があった。

眞智委員からは、防災対策課で進めている避難行動要支援者個別避難計画作成促進モデル事業も福祉の延長の考え方でやらないと難しいのではないかと。福祉部門が防災の勉強をしていかないと無理であり、支援も見守り程度ならいいが、避難となると話が違って来るわけで別府市のモデルを都会の千葉市で進めていくのは難しいのではないかととの意見があった。

最後に、鈴木委員長から、主な地域団体が連携して動いていくことが課題ではないかととの意見があった。